

# 伊那史学会規約抄

- 一、本会の事業は毎月一回郷土誌「伊那」を発行して会員に分つ。
- 一、本会の趣旨を賛し規定の会費を納入するものを以て会員とする。
- 一、会員は誌代年額六千円を原則として前金にて払い込むものとする。

## 飯田市美術博物館

- ①菱田春草常設展示  
第55期 紅葉―静寂の時―  
期間 8月30日(土)～10月5日(日)
- ②特別展 山とともに生きる  
―遠山郷のあゆみとくらし―  
期間 9月13日(土)～11月9日(日)  
記念講演会 遠山郷の歴史と文化  
―自然が育む神々の谷―  
日時 9月21日(日)
- ③自然トピック展示  
帰ってきた植物化石  
―田中芳男と科博天産部標本から探る伊那谷の自然科学黎明期―

期間 6月7日(土)～9月28日(日)  
④文化トピック展示  
柳田國男生誕150年  
柳田國男と南信州  
期間 8月26日(火)～11月16日(日)

⑤自然講座  
遠山郷かぐらの湯は特異な泉質と地質であると判明  
日時 9月6日(土)

⑥プラネタリウム  
・ねずみと森のなかまたち  
・ムーンベースと月面基地のミライ  
・北極 輝ける水の王国  
受講、展覧、その他の申し込み・問い合わせ  
飯田市美術博物館 ☎0265-22-8118

## 伊那民俗学研究所

- 1、第8回伊那民俗研究集会  
(飯田市美術博物館にて)  
「柳田國男生誕150年記念 柳田國男と南信州」  
9月15日(月・祝日) 10:30～17:00  
「鹿島踊り・みろく踊りの特色と展開」 飯木

悟(成城大学教授)、「柳田國男の紀行と民俗学」小川直之所長ほか、伊藤正英、近藤大知、櫻井弘人、松上清志の会員が発表する予定。  
2、柳田國男研究会(柳田國男館にて) 9月13日(土) 10時  
柳田國男著「先祖の話」を読む  
74歳を招く日、75最後の一念、76願はじき  
3、伊那近代思想史研究会(柳田國男館にて) 9月20日(土) 10時  
担当・森本政人  
『森本州平日記』の昭和7年7月分を読む。  
三つの会は、初めての方でも大歓迎です。  
お問い合わせは松上まで  
☎080-5108-7487

故香坂高宗  
持旨ヲ以テ位記ヲ  
贈ラル  
大正四年十月十日  
宮内省

宮内省より贈られた位記

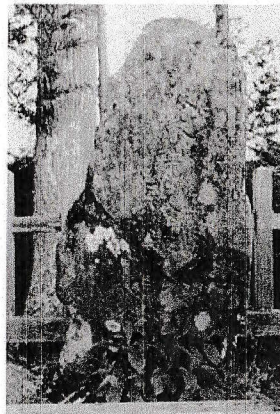
故香坂高宗  
贈従四位  
大正四年十月十日  
宮内省

祝辞  
去野朝、忠臣  
香坂高宗子  
賢敷贈位、  
先賢ヲ祝フ  
予贈  
大正五年十月十日  
伊良山葬翁院住職寺沢黙禪

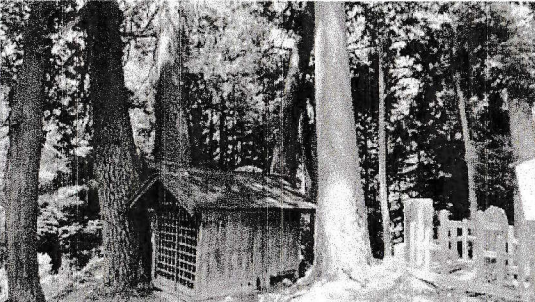
伊良山葬翁院住職寺沢黙禪 祝辞

祝歌  
乱世代の君は尽せし  
きよに賜ふ  
世にをきうと記  
浪合後藤代  
故香坂高宗

浪合後藤村長の祝歌



香坂高宗墓石



贈位奉告祭が行われた上蔵弾正林

「口絵 香坂高宗への贈位書」(伊那 2025. 9 月号、北村尚幸著)

## 口絵解説

### 香坂高宗への贈位書

香坂高宗は南北朝時代に大鹿村大河原から中川村大草一帯を治めていた武將で、後醍醐天皇第八皇子宗良親王を守護した功績により、大正天皇即位の大典の大正四年十一月十日、高宗に特旨をもつて従四位が贈られている。(高宗の後裔遺族は不詳のため、位記等贈位書は大鹿村役場に保管されている)

香坂氏は佐久地方を治めていた滋野氏の一族であるが高宗の系譜については不明な点が多い。しかし、南北朝のころ宗良親王が信濃に入るや大河原城主香坂高宗はこの地に迎え入れ、釜沢の奥地を安住の地と定め大河原の要害により親王を守護して篤く忠誠を尽くしたことは明白な事実である。親王の歌集「李花集」の詞書には「信濃国大河原といふ深山に籠りて年月のみ送り侍りにさらにいづとまつへき期もなければ香坂高宗なとか朝夕の霜雪を払ふ忠節もそのあとからん事さへかたはらいたく」とあり、高宗が親王に赤誠を尽くしぬいた事実を明確に示す資料となっている。

大典の翌大正五年十月十五日には贈位奉告祭が大河原上蔵弾正林の香坂高宗墓所において執行されている。

当日は村内の二名の神官による神事に次いで、長野県知事代理上原理事官が伝達書を朗読し、贈位御沙汰書を墓前に供した。

当日参列した主だった人々は、石川下伊那郡長・岡田郡書記・横山巡査部長・その他隣村各村長、村内は村長はじめ各団体長・地元関係者それに小学校児童生徒代表などであったが、特に飯田の各小学校・喬木小学校からは児童代表が参列している。大鹿村誌の記述によると、この日は秋晴の好天に恵まれ、全山紅葉を帯び弾正林の老松枝も鳴らさぬ中、贈位奉告祭は肅々と執り行われたとある。

中に浪合村長と浪合村養翁院住職の参列があり祝辞と祝歌の奉典がされているが、宗良親王の一子尹良親王の墓去の地が浪合であり尹良親王の墓所は明治十四年には宮内庁管轄となっているなど、浪合村(現阿智村)が宗良親王ゆかりの地であるからであろう。

後日談ではあるが、建武中興六百年記念事業として昭和十年大河原城址に、地元有志が発起人となって石碑が建立されている。碑文は市村威人によるものである。これを機に高宗を祀る香坂神社の建立の機運は高まったが、建設に至ることはなかった。

(大鹿村教育委員会 北村尚幸)